

50年の感謝を胸に。

復活から半世紀、地域で親しまれてきた車人形。
地域の伝統芸能を守る保存会のみなさんの想いに迫ります。



1 公演終了後の竹間沢車人形保存会のメンバー(2017年)。人形の遣い手以外に小道具などを担当するスタッフもいる。2 公演に向けた練習の様子。3 竹間沢車人形4代目座元の前田益夫さん。稽古では後進の指導を行っている。

伝統の演技で 過去の世界に誘う

の気持ちで原動力になっていきます。片時も人形を離さず、動きの確認に余念がありません。遣い手からスタッフまで、全員が一丸となるコピスみよしでの公演。ではその見どころとは何でしょう。

感情を人形に乗せて

車人形の特徴は、3人で操る文楽人形とは違い、1人で人形を操れること。また、人形自体が直接舞台を踏むため、力強い演技やリズムミカルで躍動感のある演技ができるのも車人形の強

味です。

「感情を人形の動きに乗せて表現するので、震える、顔を伏せるなど、動きにどんな感情が乗っているのかにも注目して欲しい」と池上さんは公演の見どころを語ります。

また、公演では人形の演技だけでなく、三味線の演奏に乗せて台詞や場面描写を歌うように語る「説経節」も必見、必聴。車人形が伝わった当初と同じように、説経節に合わせて人形が動く姿は、見る人を過去の世界に誘います。

説経節、気軽に聞いて

私の師匠が竹間沢車人形の説経節をやっていたつながり、私がやらせてもらってから早いもので30年が経ちます。説経節というと難しくとらえる人もいますが、ぜひ気軽に聞いてください。難しい言葉もそこまで多くないですし、人形のセリフごとに声色を替えたり、アクセントをつけるので、公演では説経節にも注目して欲しいです。そしてこれを機会に説経節の舞台も聞きに来てくれると嬉しいですね。



説経節
三代目 若松 若太夫さん

みよし芸術祭 2023 を締めくくる

復活公演から50周年。
再び魂が人形に宿る。

第20回 竹間沢車人形公演

12月3日(日)

13:00 開場 / 13:30 開演

演目
仮名手本忠臣蔵、蘆屋道満大内鑑

寿式三番叟、車人形教室

出演
竹間沢車人形保存 / 三代目若松若太夫(説経節)
竹本越孝(義太夫) / 鶴澤駒治(三味線)

会場
三芳町文化会館 コピスみよし ホール

料金
大人 1,200円 小・中学生 300円(全席自由)
※未就学児の同伴、入場はご遠慮ください。

チケット取り扱い
コピスみよし ☎ 049-259-3211
歴史民俗資料館 ☎ 049-258-6655
中央図書館 ☎ 049-258-6464



4 コピスみよしの車人形公演では車人形の仕組みを説明する「車人形教室」も開催。5 実際に動かしながら車人形の仕組みを大公開。一般のお客さんも車人形に触って、操る体験ができる。

魅力を伝えたい

50周年・20回目という節目の公演に向け、「これまで続けてこられたのはこの人形芝居を演じるのが楽しかったから。この魅力が少しでも多くの人に伝わってほしい」と50年を

振り返る池上さん。「お客さんあつての公演なので、今まで見に来てもらえたことに感謝したい」と続けます。
12月3日(日)のコピスみよし公演。保存会はこの50年間の感謝を胸に、車人形の魅力を演技で届けます。

車人形の操り方

【ロクロ車】

桐製の箱で底には前方に2輪、後方に樽型の1輪の車が付いている。ロクロ車を遣い手の腰に紐で結び付けると、腰を動かせば前後に移動できる。向きを変える時は後方の車を軸にする。



【足】

人形の足のかかどにある金具を遣い手の親指に挟んで動かす。



【遣い手】

遣い手は黒子の衣装を身に着ける。黒は観客からは見えないという約束事の元、舞台上で人形を操る。

【首・手】

右手は遣い手の右手で持ち、左手は首と一緒に遣い手の左手で持つ。右手についたチョイを引くと手首、指が動く。左手からはひもが出ており、遣い手の右手親指に巻き付け、これを引くと手首・指が動く。

保存会の2人に意気込みを聞きました。

平

成14年(2002)から毎年開催され、今年で20回目を数えるコピスみよしの竹間沢車人形公演。保存会はこの大舞台に向けて、その他の公演などの合間を縫いながら夏から稽古を始めています。



竹間沢車人形保存会
池上 喜雄さん 小澤 映頭さん

「あるだけでも、動くだけでも珍しい車人形だけど、珍しさだけじゃなく人形芝居の面白さを伝えたい」。そう話すのは復活公演から車人形を続けている保存会の池上喜雄さん。節目の公演を前に保存会のみなさんも練習に力が入ります。
会の中でも、若手の小澤映頭さんは今回が3回目の公演。「毎回の稽古が試行錯誤の連続。自分の思い通りに動かしたい、その